

緑風だより

第103号

令和8年3月2日発行



発行 障害者支援施設 さがみ緑風園

〒252 - 0328 相模原市南区麻溝台2 - 4 - 18

TEL042 - 766 - 2255 URL www.pref.kanagawa.jp/cnt/f488/

発行者 古賀 信也

離着任式を行いました

令和8年1月1日付の人事異動により、長澤忠行前園長が県庁の障害サービス課長として転出され、その後任として古賀信也前副園長が新園長に着任されました。それに伴い、1月8日（木）に、園長の離着任式を行いました。

当日は、7、8ホーム食堂に利用者と職員が一堂に会し、家族会役員の田中様にもご出席いただき、アットホームな雰囲気の中で、式が催されました。

長澤前園長からは「9か月しかいられずに大変残念ですが、これからは施設の運営や管理の面から緑風園をバックアップします。」という、大変心強いお言葉がありました。また、利用者の白澤さんが謝辞を述べ、皆で花道を作り、紙吹雪で長澤前園長をお送りして閉会となりました。



利用者の皆さんが安心して、より楽しくより快適に生活できる園、職員の皆さんもいきいきと働くことのできる園をめざし、皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



古賀新園長より

第51回衆議院議員総選挙・第27回最高裁判所裁判官国民審査

(期日前投票・施設内不在者投票)

生活第二課長 高木 英史

2月6日（金）に、園内で、不在者投票制度による衆議院議員総選挙及び最高裁判所裁判官の国民審査の投票を行いました。昨年の参議院議員選挙に続く投票となります。入所者全員に投票の意思を確認した上で、それぞれの選挙地区の候補者の顔写真入りの一覧や各政党の政策など選挙広報を掲載したホワイトボードをホームの見やすい場所に設置するなど、投票を希望する皆さんが事前にしっかりと考えて投票いただけるよう準備をしました。投票当日は、秘密保持を徹底し、投票に干渉するなどの不正がないよう、厳格なルールのもとに実施しました。自ら投票用紙に記載することができない方は、投票時に入所者の意思をゆっくりと丁寧に聞き取り、職員が代筆や投票の補助を行いました。



また、今回は、施設内の不在者投票に加え、何名かの入所者は近隣の公民館等の投票所に行き期日前投票を行いました。投票会場内には職員は付き添えませんが、係員の方々に丁寧に付き添っていただき、しっかり投票できたようで、投票後は皆さんとても良い表情でした。

今後も、入所者の皆さんの投票する権利、政治に参加する権利を守りつつ、入所者の皆さんが、地域住民の一員として生活ができるよう取り組んでいきたいと思っております。

魂の躍動、再び。～相模原市障害者作品展に出展～

8ホーム 菊池 賢一

皆さんは『パステル・クラッシャー “Fumi”』をご存じでしょうか？

彼は29歳で交通事故に遭いますが奇跡の生還を果たします。しかし、事故の後遺症により、以前のようにスポーツなど活動的な生活は難しい状態になりました。それでも絵は描けると、自由の利く左手で何とか絵を描き始めたそうです。きっかけは公民館で習い始めたパステル画。父と一緒に通い競うように絵の腕を磨いたそうです。みるみる上達し、49歳の時には友人の協力を得て、絵画展を開いたこともあります。

その時の個展名が『パステル・クラッシャー “Fumi” 魂の躍動』。

それから十数年、生活の場も変わり現在は緑風園での生活の中、ふっと相模原市障害者作品展の話が舞い込みます。緑風園での生活の中でも絵を描き続けてきましたが、晴れ舞台は久しぶりです。作品を出すか尋ねると、にっこり笑って力強く頷きました。

絵を描く彼のまなざしは普段の温厚な笑顔からは想像できないほど真剣、鬼気迫る表情で作品を仕上げていきました。作品展当日、残念ながら私は同行できませんでした。でも、写真に写る満足そうな笑顔を見て、再び魂が躍動した作品ができたのだと思います。



令和7年度 職員実践報告会を終えて

生活第一課長 西川 聡

今年度の実践報告会は開催テーマを『チャレンジ～私らしい暮らしの実現にむけて～』とし、二日間に分けて開催しました。プログラム内容は、地域支援課による活動の実践発表、8ホームによる利用者の経口摂食への取組み、リハビリスタッフによる地域移行を見据えた作業療法と車椅子整備にかかる取組み、7ホームによる福祉機器を活用した意思決定支援の取組み、今年度の新規採用職員による振り返りの発表でした。

いずれの発表も「意思決定支援」「当事者目線の支援」「利用者の人生を支える支援」という視点が盛り込まれた大変すばらしい発表となりました。発表において、利用者がご自身の持てる強みを生かして、主体的にご自身の生活に関与し、生活における様々な選択肢を決定できるようになる過程や、ご自身の望む生活をどうすれば実現できるかということ、これまでの生活背景や価値観をしっかりと理解し



た上で、職員と共に悩み考えていくという支援の様子を知ることが出来ました。

今年度の報告会を通じて、改めて施設は、「ただ安全に過ごす」だけの場所ではなく、利用者の皆さんにたくさんの可能性を感じてもらい、選択肢を知ってもらい、ご自身の人生を豊かにするためにはどうすればよいかを職員とともに考え、悩む場所であると感じることが出来ました。

セクションを超え、活発な質疑や意見交換も出来ました ✨ 学んだことを日々の支援に活かしてまいります ☺

